

【今号の1枚】

JICA パキスタン事務所では、イスラマバード日本人学校の生徒たちに授業を行う機会がありました。

生徒たちが JICA 事務所を訪問した際、低学年の生徒たちは、「正しい手洗い漫画」(井上きみどりさん)を通じて、手洗いの大切さや正しい手の洗い方を学びました。さらに、実際、手洗いの時に水を流しっぱなしにした場合と、途中で止めた場合にどのくらい水が無駄になるか、計る体験をしました。パキスタンではきれいな水が不足していて、JICA は水道をつくるプロジェクトも協力しています。

この体験で 2 年生の生徒は「手洗いをするとう病いやコロナにかからないのでよく手を洗います。あらうときは水をムダにしないようにします。」と感想をよせてくれました。

引き続き、皆様からの手洗い啓発活動の写真を大募集いたします！



(プライバシー保護のため、写真の一部を加工しています。)

(写真提供：JICA パキスタン事務所)



「SDGs を学校で」 JICA 地球ひろばの映像教材の制作と授業実践

JICA では、学校での国際理解・開発教育に活用できる教材を作成・提供しています ([授業で使えるショート映像集](#))。2020年3月には、水をテーマにした「水と世界」「国際協力」の映像教材が追加され、実際に教育の現場で活用されています。本記事では、映像を制作に携わった職員からの映像に込めた思いと、これらの教材を活用して授業を実践されている愛媛県立土居高等学校の越智由佳先生から現場の声をお届けします。

JICA 映像教材が最優秀賞受賞 ～教室で世界を出会う入り口に～

「JICA は教育素材の宝庫だ！」

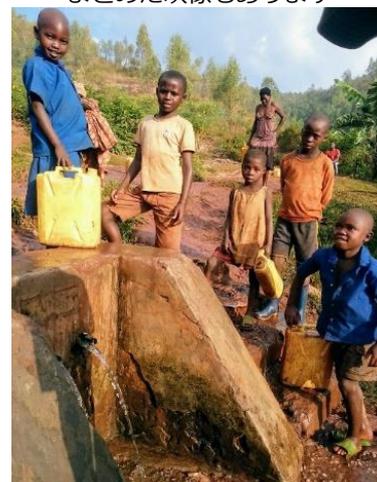
これは元教員である私が確信していることです。途上国の課題に魅力、人々の苦しみに笑顔、国際協力は相手との協働により成り立つものだという事…教室に届けたいことが山ほどあり、「[ルワンダの水分野の協力](#)」をテーマにした映像教材をつくりました。途上国経験の有無を問わず、学校の先生が生徒と共に問い、考えられるような内容・形式にこだわりました。本誌読者の皆さんには、もしかすると物足りなく感じる内容かもしれませんが、学校現場では使いやすいと評価いただき、[大きな賞 \(消費者教育教材資料表彰 2021\)](#) を頂くことができました。コロナ感染拡大で、国外どころか国内の移動も難しくなり、学校に外部の人を受け入れづらい状況にある中で、この映像で「海外に出会う」授業を展開くださる先生方もいる、と聞きます。皆さんに授業・講演で活用いただいたり、周りの先生方にお伝えいただいたりすることを期待しています！

参考：[授業で使えるショート映像集](#)、[授業活用のための参考資料](#)、[mundi 2020年10月号](#)

(JICA 東京センター 八星 真里子)



ルワンダ渡航経験がない小・中・高の先生が、本教材を授業で使うヒントをまとめた映像もあります



水くみを自身の役割ととらえ、「友達との水くみ楽しいよ」という少年達。安全な水を簡単に手に入れたい状況にあることは解決すべき課題ですが、彼らを「かわいそう」と形容することは違うと思い、映像教材でも気を付けました。

教育現場から



授業中の越智先生



授業の様子

映像教材「水と世界—ルワンダ村落部の少年の1日—」の中で、ダニエリくんの一家では、毎日子どもたちが坂道を歩いて水汲み場まで水をくみに行き、その水を家族で大切に使用していました。授業を行ったクラスには保育士や看護師を目指す生徒が多かったこともあり、生徒たちは、子どもたちの衛生面がとても気になるようでした。

そこで、この映像教材に登場する協力隊経験者の富田美佳さん(ルワンダ コミュニティ開発、水の防衛隊)に Zoom を使って質問をすることにしました。ルワンダの学校では、雨水を利用して、校内の美化やトイレに使っていること、コロナ感染対策として、街角ではタンクを上手に使用して手洗い場を作り、積極的に手を洗っていることを教えてもらいました。

私達は当たり前のように手洗いを習慣にしています。しかし、当たり前の習慣になるためには、教育が必要で、日本も時間をかけて習慣にしていってほしいことを知ることができました。そして、そのことが世界の子どもたちにとって役に立っている。改めて、世界と日本がつながっていることを実感できました。

(愛媛県立土居高等学校 越智由佳先生)



貝印株式会社さんから寄稿していただきました！ インド アッチー・アードト キャンペーンへの参画



啓発活動の様子

総合刃物メーカーの貝印株式会社は、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて国際協力機構インド事務所の主導する衛生習慣向上啓発活動「アッチー・アードト (良い習慣) キャンペーン」に参画しました。貝印からはインド仕様のピック付きツメキリ「KAI Tsumekiri」を提供しツメの清掃意識を根付かせていくとともに、爪の正しい切り方を伝えるため、チラシの配布や、実際に現地に社員が赴き、爪の切り方指導などを行なっています。

インドは日本ほど衛生に対する意識が高くなく、貧富の格差も大きいので、生活のレベルによって爪のケアに対する意識の差が大きい国です。中には文房具のはさみで爪を切ったり、自分の歯でかじったり、理髪店で散髪する際に、あわせて爪を切ってもらう方もいます。今回、JICA の取り組みに参画させていただいたことは、爪を衛生的に保つことの重要性を啓発し、爪のケア方法について普及するよい機会になりました。ツメキリを取り扱う企業として、手の衛生について引き続き積極的に啓発活動に取り組んでまいります。

(貝印株式会社)

アッチー・アードトキャンペーンについてはインド事務所の特設サイト(英語のみ)もご覧ください。



["Achi Aadat \(Good Habit\)" Campaign](#)

[Handwashing News No.9 \(2021年2月12日\)](#)にもキャンペーンの取り組みを掲載しています。



学校へのツメキリ配布の様子①



学校へのツメキリ配布の様子②



プロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」より成果報告 (その2)

実施中のプロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」より、手洗いに関するこれまでの成果を、プロジェクトメンバーの株式会社地球システム科学門上綾さんに前号に引き続き、ご報告いただきます。

第1回目の報告では、手洗いの留意点について報告しました。しかし、正しい手洗いの方法を認識し、水や石鹼を備えている手洗い施設が使える環境であっても、実際に手を洗うかどうかはまた別の問題です。COVID-19 蔓延（コロナショック）により感染予防対策として手洗いの重要性の認識やその実施の機運は高まりましたが、習慣化にまで至らなければ COVID-19 終息後は元の手を洗わない状況に戻ってしまいます。では、どのように習慣化にまで押し上げることが出来るのでしょうか？

一般的に、行動変容を促し習慣化させるためには、①衛生教育、②環境整備、③動機付け、④コミュニティ・社会との連携強化、⑤既存観念の活用、⑥実践的なステップの実施を満ち、かつ⑦10年程度の継続的な取り組みが必要であるとされています（UNICEF 2016¹：JICA 2008²）。

日本では、生活改善運動などをはじめとして、衛生行動の習慣化に向けた官民学を挙げた独自の取り組みが少なくとも幕末から実施されています。現在も乳幼児期の「ケア」、幼児期の「しつけ」、学童期から青年期、それ以降に続く「教育」という、認知・行動レベルの異なりに対応した継続的、かつ様々な分野（教育、母子保健、栄養等）での具体的な対処方法を含む衛生啓発など、物心つく前から、手洗いの実施が習慣に達するためのアプローチが、既存のシステムに取り入れられ実施されています（①、④、⑤、⑥、⑦）。また、民間企業も児童だけではなく幅広い年齢層を対象にした啓発活動の実施や、実習教材の無償提供を学校や企業に対して行っています（①、④、⑥）。また、③動機付けとしては、子供の疑問にも丁寧に対応する細やかな取り組み、学校でのハンカチチェック、手洗いコンクールや川柳コンクール等により実施されています。加えて、学校、病院、公共施設での手洗い施設整備（②）により、いつでも手洗いが実施できる環境が整備されています。特に学校の手洗い場は複数の蛇口を備えており、児童・学生が一緒に手を洗うことを可能にするだけでなく、手洗い行動に対する強い興味と実践を促進することを可能にしています（③、⑥）。それらハード面、ソフト面での継続的に繰り返される多角的な取り組みが、日本の手洗い行動の習慣化に一役買っていると考察されます。



小学校の給食前の手洗いへの取り組み



モザンビーク「ニアッサ州持続的給水・衛生改善プロジェクト」で建設した小学校衛生施設（トイレ）の手洗い場

今後、この日本の歴史、取り組みから得られた知見が広まり、世界中で水と石鹼を用いた手洗いが当たり前になる日が訪れることが望めます。

1. UNICEF (2016) 'Water, Sanitation and Hygiene: Hygiene Promotion', https://www.unicef.org/wash/index_43107.html (2020年11月アクセス)
2. 国際協力銀行、国際協力機構 (2008) '日本の国際協力における衛生支援ガイドブック (案)', 国際協力機構

(プロジェクト研究「水供給・衛生分野の新型コロナウイルス対策の教訓と必要な支援方策の検討」 門上 綾)



「正しい手洗い漫画」翻訳状況のお知らせ

井上きみどりさんに描いていただいた「正しい手洗い漫画」は2021年7月5日時点で、32の言語への翻訳が進み、世界各地で活用いただいています。翻訳には各国で実施されているプロジェクトや JICA 事務所の皆さまのみならず、有志の学生さんも挑戦され、各言語で様々な工夫が施されています。これらの現地語版は健康と命のための手洗い運動ウェブサイトで閲覧・ダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

「これから翻訳します！」「既に翻訳したのに一覧がない！」という方々がいらっしゃいましたら、事務局までご一報ください。

「正しい手洗い漫画」翻訳状況 (2021年7月5日時点)

1	アムハラ語	16	テトウン語
2	アラビア語 (エジプト方言)	17	トク・ピシン語
	アラビア語 (パレスチナ方言)	18	トルコ語
	アラビア語 (ヨルダン方言)	19	トンガ語
3	インドネシア語	20	ネパール語
4	ウクライナ語	21	ハイチ・クレオール語
5	ウルドゥ語	22	バシュトゥン語
6	キルギス語	23	ビスラマ語
7	クメール語	24	ビルマ語
8	シンハラ語	25	ヒンディー語
9	スペイン語	26	フランス語
10	スワヒリ語	27	ベンガル語
11	タイ語	28	ポルトガル語
12	タジキスタン語	29	マダガスカル語
13	タミル語	30	モンゴル語
14	タリ語	31	ロシア語
15	ディベヒ語	32	英語

本ニュースレターに掲載・共有したい記事・写真・情報等を随時募集しています！

- ①配信/配信停止の希望、②記事掲載の希望、③本メールマガジンの表示不具合などのほか、ご不明な点やご要望、ご感想がございましたら、下記の編集・配信担当支援スタッフまでご連絡ください。



地球環境部 JICA 健康と命のための手洗い運動事務局

Web サイト <https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/handwashing/index.html>

Handwashg@jica.go.jp

